

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 29, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept. 2023



江の島に現れたホッケ

写真(KPM-NR 241006A):

ホッケ *Pleurogrammus azonus* Jordan & Metz, 1913, 新江ノ島水族館水槽内, 崎山直夫撮影

さきやま ただお
崎山 直夫 (新江ノ島水族館 館長)

せのう ひろし
瀬能 宏 (学芸員)

2023年2月13日、北方系の魚類として知られるホッケ(スズキ目アイナメ科)が江の島の定置網で漁獲されました。相模湾には温帯域の魚類が多く見られる他、近年では海水温の上昇傾向を反映して熱帯・亜熱帯生物の記録が増えつつあります。一方、冬の寒い時期には北方系の生物が出現することがあります。本種もその一つで、本来は東北地方以北に多い魚類です。

相模湾では1962年以降、これまでに少なくとも16例のホッケの出現が記録されています。昨冬は下田の爪木崎^{つめぎさき}にキタ

オトセイ(2022/12/27)、東京湾の羽田空港近くでトド(2023/1/15)が出現したことから、親潮からの冷たい水が相模湾に影響を及ぼしていた時期があったのかもしれない。

食卓では開き干しなどでなじみのあるホッケですが、近年は漁獲量が激減し、食卓にのぼるサイズが小型化して値段も高騰しているようです。今回のホッケは他の魚に混ざって漁獲されたにもかかわらずとても状態が良く、「相模湾産のホッケ」として新江ノ島水族館で展示することができました。